

東京都ソーシャルスキルトレーニング支援在り方検討会（第1回）

<議事要旨>

1 会議概要

- (1) 開催日時 令和4年8月31日（水曜日）午後6時30分から午後8時25分まで
- (2) 開催場所 都庁第一本庁舎31階 31C会議室及びオンライン開催
- (3) 出席者 14名

2 議事に対する主な意見

(1) 本検討会の概要

- 学童期の早い段階でソーシャルスキルトレーニング（以下「SST」という。）のプログラムやノウハウを持った大人と関わる機会があるというのは非常に重要であり、本検討会の議論は重要な取組であると思われる。
- 放課後等デイサービスのような障害児通所支援事業所は増加しており、国の検討会でも質の担保について課題になっている。東京都としてSSTの支援の在り方を示すことは国に対して影響力も大きいと認識している。

(2) 実態把握調査の結果について

※実態把握調査そのものに対する意見はなし

(3) SSTの目的及び効果

- スキルトレーニングを扱うターゲットとなるスキルをどう決定するか、アセスメントをどうするか、発達の段階を明確にした上で支援を開始する必要がある。
- 放課後等デイサービスで実施することを意識したSSTの在り方を検討し、提示することで通所支援事業所がSSTに興味や関心を持ってもらうことにつながると思う。
- 子供と関係性をつくるスキルや支援者側のスキル向上も重要である。

(4) 本人及び保護者の理解

- 子供から見て、親でもない教員でもない放課後等デイサービスの職員が行うSSTが自然に受け入れられるものかどうか重要。
- 本人にSSTのプロセスを可視化してわかるようにするとともに、これだったらみんなとやれるようになりたいと思えるプログラムであることが最も重要である。
- 本人や保護者のみならず、周りの支援者の意見や理解も重要である。

(5) 全体を通しての意見

- 特別支援学校に通う児童は学校教育の中にSSTが取り込まれているが、特別支援学級に通う児童はそのような機会が少ない。保護者が希望してもSSTを受けられない児童が多い。
- 高度なSSTの支援プログラムを本検討会で作成するのは難しいが、考え方等を整理したガイドラインやそれに基づいた研修の実施などの取組を行えると良い。

- 本検討会の議論の対象は6歳から18歳までの児童青年期で、通常学級、特別支援学級に通級している発達障害の児童で、放課後等デイサービスにおいて対人スキルを学ぶSSTを想定。児童についてはライフステージなどいくつかに分けることが必要。
- スキルを決定するときには、領域、発達、年齢、本人、保護者ニーズを軸に慎重に決めていくようなガイドラインが必要。
- アセスメントの段階で、保護者や本人も巻き込んで、支援者と共に行うということや、支援開始後も継続的にモニタリングを行っていくことが重要。
- 福祉分野で行うSSTと特別支援教育の中で行うSSTを整理し、福祉と教育が図りながら実践していくことが望ましい。
- SSTの内容として、対人関係に係る支援に加えて、地域生活の支援という観点も大事。